

令和7年7月18日

日本数学教育学会の学会誌再編に関するお知らせ

平素より当学会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本学会では、2021年3月に、理事会に「財務健全化ワーキンググループ」を設置して、今後5年間を見据えた事業のあり方とその具体的方策を検討し、アクションプランを策定しました（詳細は、第104巻第9号、第10号巻頭言をご参照ください）。この一環として、2024年1月に「学会誌再編ワーキンググループ」を設置し、検討を重ねてまいりました。再編に向けた方向性等の途中経過については第107巻第1号、第2号でご報告いたしましたが、2025年6月の日本数学教育学会社員総会において、学会誌の再編が承認されましたので、ご報告いたします。

1. 学会誌『算数教育』と『数学教育』を統合し、『算数・数学教育』とし、年間6回の発行とします。
あわせて、新たな論文種別『実践報告』を設けます。これは、日本数学教育学会全国大会で発表され、分科会助言者から推薦を受けたものや、日本数学教育学会が主催する授業づくり研究会において実施された授業を、その授業者が分析したものを対象とします。
2. 実践研究推進部高専・大学部会誌を改編し、日本数学教育学会の学会誌として、『高専・大学 数学教育』を新設します。

これらの改訂に伴い、年会費の引き下げも予定しております。

今後とも、当学会および学会誌への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本数学教育学会
会長 清水 美憲